

高浜市総合計画審議会（第7回） 会議録

日 時	平成22年9月16日（木）午後7時～8時30分		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	10名
出席者	委 員	中川幾郎、板倉良平、神谷小百合、竹内一仁、尾方勝利、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、神谷和之、古橋知美、神谷通夫、小野田由紀子、杉浦幸七（13名出席）	
	事務局	地域協働部長 岸上善徳 地域政策グループ リーダー 神谷美百合 同 主 幹 岡島正明 同 主 査 神谷義直 同 主 査 鈴木明美 同 主 任 山本久美 同 主 事 桑山由紀子 同 主 事 中村彩 （8名出席）	
次 第	1 会長あいさつ 2 議事 1) 第6回会議録の確定について 2) 「車座談議」「出前トーク」について 3) 総合計画中間公表（案）について 4) 「素案発表会」の進行について 5) 今後の策定スケジュールについて 3 その他		
資 料	資料1 : 高浜市総合計画審議会（第6回）会議録（案） 資料2 : 第6次高浜市総合計画 中間公表（案） 資料3 : 第6次総合計画・自治基本条例 策定スケジュール（案）		

2. 議事

1) 第6回会議録の確定

—原案通り承認される—

2) 「車座談議」「出前トーク」について

事務局より、「車座談議」「出前トーク」の開催実績について報告。

—質疑なし—

3) 総合計画中間公表（案）について

事務局より、資料2「第6次高浜市総合計画 中間公表（案）」について説明。

【質疑等】

- 委員：
- ・ P5及び中間公表全体に係ることだが、平成と西暦の年度と年の表現を統一した方がよい。P4の西暦には年度が入っているが、P5の西暦には年度がない。
 - ・ P11、基本目標2【教育・子ども】の文章中で「る」が隠れている。
 - ・ P11、円の重なり具合について、基本目標2と4が基本目標1と3の上にあるが、基本目標2を3の下に、基本目標4を1の下にすると、花びらのようになり、バランスが良くなる。
 - ・ P15、土地利用構想図の凡例にないものがある。市域の破線、都市幹線道路軸の点線部分の凡例がないので入れた方が良い。
 - ・ P20①計画の体系を、総合計画と基本計画を明確にするために、「①基本計画の体系」にした方が良い。
 - ・ P20、21、22、23は、ページをまたいでいるので見にくい。P20に「都市像」「基本目標」「目標」を、P21に「こんなことに取り組みます（目標達成のための手段）」とすると、見やすくなるのではないか。
 - ・ P25、「みんなで目指すまちづくり指標」は、当初の形から変わったものになっている。このような様式の変更は、上位の会議である審議会でも検討して、承認したものを、分科会におろすのが本来の進め方ではないか。出来ればそのようにしてほしかった。
 - ・ P25、指標の目指す方向の矢印がしっくり来ない。目標値の設定で矢印を使うのは分かりにくい。数値で表現できないものを定量的に表すのに使うことはある。矢印を使うなら、補足をしてはどうか。上向きは増加することが望ましい、下向きは減少することが望ましい、横矢印は維持することが望ましい、というような注記を入れてはどうか。
 - ・ 矢印については、施策の実施の方向の意味合いとしても使うと思う。これ以上力を入れてやるもの、やめてしまうものなど。矢印の使い方については、この場で皆さんの意見も聞いてはつきりさせると良いと思う。
- 委員：
- ・ P15、市役所、駅名、地域高規格道路軸、都市幹線道路軸の道路名を入れてはどうか。初めて見る人にも分かりやすくなると思う。
- 事務局：
- ・ P25、矢印の使い方について、事務局としては、指標と目指す方向を合

わせて表示することにより、どのようなまちづくりを目指していか
が、より明確になると考え、このようにした。矢印の解説については入
れた方が分かりやすいと思う。

- ・ P15、土地利用構想図だが、都市幹線道路軸の点線部分は、道路はある
が都市幹線道路としてはまだ供用開始していないところ。市境は分かる
かと思いい凡例に入れていなかった。土地利用構想は、住宅系ゾーンや工
業系ゾーンなどのゾーンニングが主目的であるため、細かい駅名や道路
名も入れていなかったが、表現方法について、ご審議いただきたい。

- 委 員：
事務局
- ・ P15、土地利用構想図はカラーで示す予定か。
 - ・ カラーで示す予定。
- 委 員：
- ・ 小中学生でも分かるようにするのが大前提。市民会議で皆さんがいろん
な思いをぶつけてきたところの意図を隅々にまで反映してほしい。
- 会 長：
- ・ P15、土地利用構想図に、駅や市役所、方位を入れても差し支えないの
ではないか。道路も工事完了していないと言え良い。
 - ・ P25、矢印について、「将来に向けての方向性を示しています」は良い
が、「3段階で示しています」は要らないのではないかと。無駄な説明。
 - ・ レイアウトに関するご指摘については、直していただきたいと思いま
す。
- 委 員：
- ・ P45、まちづくり指標4) 企業を誘致した数とあるが、現在の円高など
の経済情勢を考えると、既存の企業に頑張ってもらいた方がウエイトと
しては高くなるのではないかと。経済に左右される指標なので、指標とし
て載せるのが良いのかどうか、議論して欲しい。
- 会 長：
- ・ みんなで目指すまちづくり指標は、各分科会で出されたものだと聞いて
いる。これについて、皆さんで意見交換したい。先程のご意見は、景気
の好景気・不景気に左右され、自助努力ではどうにもならない指標もあ
るという指摘だった。
- 委 員：
- ・ 産業分科会では、行政側の担当とも打合せをした。現状の景気を考える
と、P45の指標にある1)から4)の全てが、このような書き方で良い
かと意見があった。しかし、目標指標として他に良いものがなかった。
もう少し、高浜らしい目標指標を入れたいという感想を持っている。
- 委 員：
- ・ 指標の目指す方向の矢印について、目標値が定量的に示せない場合に矢
印を使うことにしてはどうか。将来的に目指す方向として「増加する」
というように置き換えてはどうか。
- 会 長：
- ・ 矢印について、意見が2度出された。目標値を数値化できない場合に矢
印を使ってはどうかという意見。前段では、矢印の意味が分からないと
いう意見。
 - ・ 目標値設定及び指標の目指す方向として、矢印を使うことは、多くの自
治体がやっている。
 - ・ 目標値が2013年度のみで、中期・後期目標が、審議会の断りなく削ら

れているという指摘をいただいたが、これについてはどうか。

- 事務局： ・ ここに 10 年間の目標値を書くと、基本計画が 10 年間の計画であると誤解されると思い、2013 年度のみとした。審議会に事前説明できなかったことは申し訳なかった。
- 会長： ・ 10 年先の目標値は設定できないのではないか。
- 委員： ・ 目標値は難しいが、一度数値を入れるべき。PDCAを回し、検証する上でも必要だと思う。
- 会長： ・ 再確認したい。P20 は、「①基本計画の体系」とすべき。
・ P24、25 に②基本計画の見方とあるが、P24 は基本計画で P25 は行政行動指針と考えることが望ましい。アクションプランは、基本計画に掲げている「こんなことに取り組みます」の下にもっと細かな行動目標が各部局出てくる。アクションプランは行政が責任を持つ部分である。
・ まちづくり指標について、外部要因、景気の変動に大きく左右されるものについては、指標として相応しいかどうか、再度検討いただきたい。
- 委員： ・ 企業誘致は市長のマニフェストにもある。やるということを示すためにも指標に入れたい。景気によって左右されるが、あえて厳しい数値を入れて、行政も一生懸命やっていただくということで、部会としては、指標として入れたい。
- 会長： ・ 企業誘致の数には、中小企業なども含まれるのか。
- 委員： ・ ここで言う企業誘致とは、工業系ゾーンへの企業の誘致だと思う。
- 会長： ・ 小さい企業を誘致した方が、件数を増やすのは簡単だと思う。大企業か中小企業かというより、「市内雇用者数を増やすこと」を指標とした方が適切ではないか。
- 委員： ・ 企業誘致の数を指標に入れないとすると、P44 のこんなことに取り組みます！の 1 つ目「地域経済の振興を図るため・・・」を具体的に書く必要がある。
- 会長： ・ 企業誘致キャンペーンの実施回数というものもある。
- 委員： ・ この状態で公表するのか、今日の意見などを踏まえて修正したものを公表するのか。
- 会長： ・ どちらでも良いと思う。意見を聞いて変えるためにパブリックコメントをするので、どの時点で変更してもよい。私としては、企業誘致数は危険な数値だと心配している。
・ まちづくり指標については、分科会で何度も検討いただいて良いものにしていただきたい。アウトカム指標だけでなく、アウトプット指標も検討すると良いと思う。
- 委員： ・ 委員の先程の意見は、全体の修正について公表前にするかどうかという意見か、P45 を公表前に変更するかどうかという意見だったか。
- 委員： ・ 中間公表までに変えておかなければならないものは変えておいた方がよい。中間公表後に審議会でも変えても良いのかということもはっきりし

ておいた方が良い。

- 委員： ・ P29、目標が達成された姿の3つ目「職員は、市民の意見をじっくり聞き、行政の考えをきちんと伝え、市民と真剣に対話しています。」とある。これは大変なことだが、3年間で本当に出来るのか。どういう対話、勉強会をするのか。市民の意識が高まり、市民だったら誰でも意見を聞くとなると大変。窓口をまちづくり協議会にする、町内会にするなど、その辺りまで考えておいた方が良い。
- 委員： ・ そのような意見を出すのが市民会議。経済情勢に左右されるからハードルを下げるというものとは違って、ソフトに関しては、市民の意見として出てきたハードルを下げるべきではない。
- 会長： ・ アクションプランは1年ごとの計画。基本計画と、基本計画をアクションプランにつなぐ行動方針は分けた方が良いと思う。
- ・ 基本計画は審議会が責任を持つ部分だが、アクションプランは行政が責任を持つ部分である。議会がアクションプランまで審議するのはオーバーワークになる。審議会としては参考の部分だということが分かるようになるとうい。
- 事務局： ・ 行政行動指針という名称ではどうか。
- 会長： ・ そのようにしてください。
- 事務局： ・ P25「職員は、市民の意見をじっくり聞き」は、職員は現場の声にしっかり耳を傾けて、「行政の考えをきちんと伝え」は、出来ることと出来ないことなど市民にしっかり伝え、市民と真剣に向き合うことで、協働で進めていきたいという考え方を示した。
- 委員： ・ 計画に PDCA とあるが、今回、この基本計画フォーマットをつくるのも PDCA マネジメントと同じだと思う。細かいところから気を使っていただいて、今後は進めていただきたい。
- 会長： ・ P11 は、花びらになるように修正。
- ・ P15 の土地利用構想図については先程確認したとおり。
- ・ P20 は、基本計画の体系にタイトルを変更する。
- ・ P24（左）、25（右）は、左は基本計画、右は行政行動指針に分ける。
- ・ 指標は、外部要因によって左右される指標は、各分科会で再度検討していただきたい。特に、P45 の指標については分科会に任せるかどうか。中間報告で意見が出てからでも手遅れにはならないと思うが、指標については再度点検がいる。

4)「素案発表会」の進行について

事務局より、「素案発表会」の進行について説明。

—異議なし—

5) 今後の策定スケジュールについて

事務局より、資料3「第6次総合計画・自治基本条例 策定スケジュール（案）」について説明。

【質疑等】

- 委員： ・ アクションプランはいつ作るのか。
- 事務局： ・ 3か年の計画を10月にはとりまとめる方向で考えている。
- 委員： ・ アクションプランについて、分科会で会話をする機会はないのか。
- 事務局： ・ 平成23年度のアクションプランは行政で作成を進めている。PDCAで行政評価をする段階で分科会と会話することはあるかもしれないが、来年度のアクションプランと一緒に作っていくことは考えていない。
- 委員： ・ アクションプランの内容を知らないで、分科会のメンバーは動くということか。
- 事務局： ・ アクションプランは、行政の行動計画なので、市民の皆さんには見守っていただいて、評価の段階でまた市民の皆さんにも関わっていただくことになる。
- 会長： ・ 総合計画（基本計画）のもとに、教育計画、文化計画などの分野別計画がある。それらで見直さなければならない部分もでてくる。その時に、総合計画審議会の分科会の座長さんなどが参画していただけると良い。

—原案通り承認される—

3. その他

- 委員： ・ 議会として、総合計画の策定に積極的に関わりたい。6月議会では、基本構想に加えて、基本計画も議決の対象にした。策定の経緯や内容について、議員に説明する機会を設けて欲しい。
- 委員： ・ 自治基本条例の分科会に属しているが、「目標3 市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います」の3つの指標は、みな良い指標が出ていると思う。
- 委員： ・ 市民会議に期限はあるのか。
- 事務局： ・ 市民会議は、当初1年の予定だった。ただ、総合計画の進行状況を見守っていただくため、再募集をして市民会議を継続していきたい。ぜひ、来年度もご協力をお願いしたい。
- 委員： ・ 子ども会の次の役員が市民会議のことを良く知らずに、募集時に名前を書くと、なかなか参加できず名前だけの委員になってしまう。子どもに手のかからない方に声をかけないと、小さい子どものいる人は市民会議に強く引っ張り込めない。
- 委員： ・ 地図（土地利用構想図）については、私も気になっていたが、ご指摘があり、修正することになったので良いと思う。
- 委員： ・ 前回の市民会議で、自分たちがどんなことが出来るかということで色々な案が出されたが、そういった身近な部分が分かりにくくなって

しまった。そこが審議会でも気になっていたが、アクションプランで具体的なことを考え、実行するという話が行政からあった。市民会議に出た人は、(自分たちの意見や総合計画が) どうなっていくのか気にしている。1年で終わりではなく、これからの活動に繋げていくことが大事。

- ・ 車座談議に参加した際、質問時、何を聞いていいのかわからないという人がいた。ただ、行政側から総合計画の話をして終わるのではなく、まち協の人は、総合計画をどう捉え、どのように関わることが出来るのか意見交換などが出来ると良かった。地域を支えるのはまち協だと思うので、まち協の背中を押すことにもう少し力をいただけると良い。

- 会 長 :
- ・ 最後のご意見は大事な意見。質問無しで終わらないためには、住民自治とは何かという話を絶えずしていかないといけない。
 - ・ 総合計画と中位計画の内容にずれがないか点検していただきたい。
 - ・ まちづくり指標を実現するためのアウトプット指標は各課が責任をもって考えること。それが、アクションプランと連動する形にしていきたい。ただし、アクションプランについては審議会の審議対象ではない。

- 傍聴者 :
- ・ 車座談議に参加した人が「あれは車座談議でない」と言っていた。市民同士の会話が出来なかった。これからそのような機会があると思うので、その部分を改善すると、もっと参加しやすくなる。

- 会 長 :
- ・ 情報共有された段階で開催すれば車座談議になったと思う。「車座談議」というネーミングに過剰な期待があったのかもしれない。今回は、広める、伝えるのが目的で、聞く方としては情報が不足していた。今後、情報共有された段階で、車座談議、タウンミーティングをどんどんやると良い。

- 事務局 :
- ・ 出前トークという形で開催する予定がある。意見交換を十分にしたい。
 - ・ 次回は、11月8日(月)でお願いしたい。

以 上